

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター クローバー		
○保護者評価実施期間	R6年4月1日 ～ R7年2月28日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16 (回答者数)	12
○従業者評価実施期間	R6年4月1日 ～ R7年2月28日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	R7年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	適切な支援の提供、満足度	日々活動や子供たちの様子、変化などについて話し合いを重ね、成長を導ける支援の在り方を検討しています。	支援者それぞれが、特性に関する知見を深めるとともに、それに見合った専門性を高めていけるよう勉強会の実施や研修会等へ積極的に参加していきたい。
2	保護者とのコミュニケーション	送迎時に積極的にコミュニケーションを図ること、特に今日の様子をしっかりお伝えすることを心がけています。大切なお子さんをお預かりする責任を持ち、安心して預けていただける関係を大切にしています。	小さな変化への気づきを大切に、保護者間とのコミュニケーションを深めていきたいと思います。
3	相談援助	子育て世代から子どもが成人を迎えた世代まで年齢幅広いスタッフが勤務しています。専門性はもちろん様々な立場での相談をお受けすることが出来ます。	経験値～専門的な部分まで様々な立場で相談をうけることが可能です。それぞれの専門性を活かしていきたいと考えています。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	環境に関して 療育室の広さやトイレの配置等	多目的で使用していた建物を利用。事業所用として設置したものではないため不十分な点も多々あり。	物的環境の変化は望めないため、活動内容や時間帯により部屋数が確保できることなどで不足を解消したい。 *子供用便器でないことは、日常生活(家庭・出先)では普通であり、その使用を経験していくには良い環境だと感じている。
2	幼稚園やこども園保育園等地域との交流の機会 保護者会・父母会等の開催が少ないこと	利用者大半が保育園、幼稚園と併用。また、保護者も就労している方が多い。併用先行事への参加等考慮すると、保護者への負担が大きいと考えている。	・希望によりいつでも参観可能としている。 ・年2回参観を実施。その際保護者間交流の機会を提供。
3	非常時の対応について「解らない、どちらともいえない」との回答が多かった。	契約時やお便りで広報しているが周知されていないことが分かった。	避難訓練の計画や実施の様子、非常時の対応、マニュアル等について順次広報していく。